

EP A ハノイ 便り

9月号

平成30年9月10日

ARCベトナム校発行

＊～＊ 看護・介護 専門講義 ＊～＊

7月の第1回日本語能力試験を終えた8月、通常の授業に加えて、看護・介護の研修がありました。日本からこの研修のためにいらつしやった専門の先生の講義を受けたり、ハノイ近郊の高齢者施設に見学へ行ったりしました。その時の様子を、専門講義についてのインタビューと、施設見学の感想文を通してご紹介します。

★看護の専門講義（インタビュー）

N2組 グエン・チャン・カイン・リー★

今は今日の専門の授業が終わったばかりです。日本人の教授に習うのははじめてです。とてもうれいんです。私の将来の仕事に役立つ知識を勉強しました。日本の看護の技術とベトナムの技術は少し違うので、私はびっくりしました。たとえば熱の時、ベトナムではお湯で熱を下げます。日本では反対で氷で下げます。

さらに、看護の専門の言葉も勉強しました。言葉はとても難しいです。カタカナも漢字も長くて覚えにくいですが、先生がゲームをしてくださったおかげで、早く覚えられました。毎日1時間、専門の言

葉のテストがあるので、毎晩たくさん復習しなければなりません。でもあした、いい点数がとれるように頑張ります。専門の授業のおかげで、専門の日本語がわかるようになって、看護師の仕事にやる気が出ました。自信をもって日本へ行こうと思っています。



専門の言葉の勉強や看護の実習を通して、看護師に必要なチームワークも学びました。

2週間しか専門の教授と勉強しませんが、いろいろな知識を得ました。こんな授業をたくさん受けたいです。これからも日本へ行って夢を実現するために日本語をしっかり勉強します。大変だと思いますが、頑張ります。

（文：C11組 カオ・ティ・ゴック・ラン）

★介護の専門講義（インタビュー）

C3組 ドー・トゥアン・ホア★

2週間、介護の専門を勉強しました。先生のおかげでいろいろなことを勉強できました。始めの1週間は実技の授業で、移動の介助や、食事の介助や、排泄の介助などを勉強しました。次の1週間は理論の授業で、日本の医療保険制度の仕組みや、日本の高齢社会や、介護におけるコミュニケーションなどを勉強しました。これから、利用者さんの様子を観察して、利用者さんの気持ちがわかりたいです。



実技の授業では、まず講義を受けて、それから、ベッドや車いすなどを使って介助の練習をしました。先生方が介助の仕方を丁寧に教えてくださいました。

授業中、一番印象的だったのは、利用者さんをお世話するとき、できるだけ利用者さんの残存能力を利用することです。この介護の考え方は利用者さんに対してとてもいいことです。利用者さんの運動能力も回復できます。



理論の授業では車いすに乗って動かす体験をしました。
利用者さんは残存機能が使えることがわかりました。

日本では医学がとても発達しています。それに、介護施設のサービスも豊富です。それで、私は日本へ行って、経験をたくさん積みたいのです。そして、利用者さんと家族にとって、一番いいお世話をしたいです。どんなに大変でも頑張ります。
(文：C11組 グエン・トゥー・タオ、グエン・ティ・ゴアン)

★高齢者施設見学（感想文）

C11組 グエン・ティ・アイン・グエット★

私達は8月19日に施設見学に行きました。この機会が研修所に入ってから、初めての実際の体験です。

研修所から施設までバスで60分くらいかかりました。初めて施設を見て、びっくりしました。とても広くてきれいです。私達は施設の方に、設備を案内していただきました。モダンな入浴介助の機械を見るチャンスもありました。「とてもすごい技術だな」と思いながら見ました。

施設の周りを見学してから、会場で集合しました。ここで、利用者さんの移動介助を実習しました。最初に施設の方の演習を見たとき、とても簡単だと思

いしましたが、実際にやると、とても難しかったです。施設見学の前に、私達は専門講義でベッドから車いすへの移乗介助の技術を勉強しましたが、実際にまひがある利用者さんを介助するとき、勉強したことと少し違って、大変でした。でも、施設の方がとても優しく、いつも笑っ

てくださったので、私達もできました。移動介助を練習したあとは、食事介助の時間です。みんな食堂に集合して、施設の方の食事の準備を手伝いました。

私は利用者さんに食事をさせたり、話したりして、とても楽しかったです。利用者さんの体調によって違いますから、食事介助も大変です。でも、私達はいつも笑いながら「ゆっくり食べてください」と言いましたので、利用者さんは「ご飯を全部食べました。私はとても幸せを感じました。」

午後2時に、利用者さんの間食介助をしてから、浴室での介助をしました。その日はとても暑かったので、利用者さんにシャワーを浴びさせたあと、汗をたくさんかきました。でも、利用者さんの満足そうな顔を見て、疲れも忘れてしまいました。

見学を通して、勉強した知識と実際に実習することとはどこが違うか、よくわかるようになりました。私にとって、施設見学の日は忘れられません。

来年、日本へ働きに行きますから、これから日本語はもちろん、専門知識もきちんと勉強しようと思

います。

参与観察を行った日本語講師からは「候補者は看護師・介護士らしい表情をしていた」「専門について日本語で理解し、質問する候補者もおり、半年の日本語学習の成果を感じた」という声がありました。9月からはよいよ最終学期、日本語能力試験に向けてがんばります。